

平成28年度の事業の概況について

平成28年度は、『杜の都しんきん』第4次中期経営計画(平成27～29年度)の中間年度として、「最も相談しやすい地元のしんきん」の実現に向けて、①被災地への継続的な復興支援とともに、お取引先や地域の成長・発展等に向けて、当金庫の独自性・特性を最大限に発揮する、②健全な財務の確保を目指すとともに、法令等を厳格に遵守した適切な業務運営に努める、③一人ひとりが今まで以上にお客さまから信頼される職員となるために、研修制度の充実と各人の自己研鑽を奨励していく、この3点を基本方針(重要課題)として、鋭意取り組んでまいりました。

また、中期経営計画の中で「『地域社会の発展のために設立された地元の信用金庫』としての原点に立ち、東日本大震災からの復興支援を加速するとともに、『まち・ひと・しごと創生法』の基本理念を尊重し、地域やお取引先の更なる成長・発展等に向けて取り組む」ことを第一の柱とし、徹底した顧客訪問を実践する中で、お客さまの満足と信頼を得る金融サービスの提供に努めてまいりました。

具体的な取り組みとしましては、融資関連では、震災復興支援商品としてお客さまの資金ニーズに対応するために継続して取り扱っている無担保・無保証の『金運カードローン』、『スーパー金運カードローン』の極度額の引き上げと金利の引き下げ

を実施し、さらに使い勝手をよくしました。また、平成28年11月から、地域活性化に貢献するため、創業支援や資金繰りの安定化などに利用できる被災地支援特別融資『スーパー・グレードアップV(ファイブ)』の取り扱いを開始しました。

預金関連では、期間限定で懸賞付定期預金「でっかい夢定期」などを取り扱うほか、新商品としてお祝い定期預金『開運招福』の取り扱いを開始しました。

さらに、地域社会貢献として、引き続き、仙台市が策定した「百年の杜づくり事業『新しいみどりの基本計画』」に賛同して寄附金を贈呈したほか、岩沼「千年希望の丘植樹祭」に参加しました。文化貢献事業でも「県民ロビーコンサート」ネーミングライツ、「ルノワール展」や「仙台クラシックフェスティバル」など様々な協賛事業にも積極的に参画させていただきました。

平成29年度は、現在当金庫が推進している「第4次中期経営計画」の最終年度となりますが、「地域社会の発展のために設立された地元の信用金庫」であることを基本に、これまで当金庫が培ってきた地元中小企業や地域住民との信頼関係を更に深掘りし、被災地域の復興、地域経済の活性化と発展に向けて役割を果たしてまいります。

『杜の都しんきん』第4次中期経営計画(平成27～29年度)

3つの柱

被災地域の復興支援を加速し、地域やお取引先の成長を支援していくために、お客さまとのコミュニケーションを一層深化させ、真にお客さまの利益になる金融商品・サービスをタイムリーに提供し、お客さまのニーズに応える経営を行ってまいります。

地域社会やお取引先からの信頼を維持していくために、経営の透明性を高め健全な財務の確保等を目指すとともに、法令等を厳格に遵守した適切な業務運営を行ってまいります。

一人ひとりが今まで以上にお客さまから信頼される職員となるために、知識・ノウハウ等の共有化を目的とした研修制度の充実を図るほか、高齢者や女性の活躍促進に向けた職場環境の整備に努めます。

目指すべき姿 地域経済社会への更なる貢献と健全経営の徹底

地域に貢献し、地域とともに成長する「最も相談しやすい地元のしんきん」を目指して

平成29年度事業計画 重要課題

被災地への継続的な復興支援とともに、お取引先や地域の成長・発展等に向けて、当金庫の独自性・特性を最大限に発揮してまいります。

「地域社会の発展のために設立された地元の信用金庫」としての原点に立ち返り、徹底した顧客訪問を通してコミュニケーションの深掘りを実践し、地域の様々な課題解決に取り組めます。

- 徹底した顧客訪問など金庫の独自性・特性を活かした取組みを一層強化し、地域の様々な課題を解決していくことにより、頼れる金融機関としての存在感をさらに高めていきます。
(金庫の独自性・特性の発揮)
- お取引先の様々なライフステージに応じて、その事業内容や成長性・経営課題等を適切に評価(事業性評価)し、最適な金融サービスの提供に取り組めます。
(質の高い金融仲介機能の発揮)
- 幅広いお客さま(高齢者や若年層、女性層など)とお取引強化による顧客基盤の維持・拡大を図ります。
(安定した顧客基盤の維持・拡大)
- 金庫と地域社会の持続的発展に向けて、①新商品開発、②新たな販売方法の導入、③新規顧客の開拓、④組織の改革、⑤働き方改革など、既存概念から脱却して次世代につながる新たなビジネススタイルを創っていきます。(イノベーションの創出)

健全な財務の確保を目指すとともに、法令等を厳格に遵守した適切な業務運営に努めてまいります。

経営の透明性・健全性の確保、内部管理態勢の整備等を図り、地域やお客さまからの信頼度を高めていきます。

- お客さまの目線に立った経営を行っていくこととし、法令や業務上の諸規則等を厳格に遵守し、健全で適切な業務運営に徹します。
- お客さまの利益保護と利便性向上のために顧客保護管理態勢の強化を図ります。

一人ひとりが今まで以上にお客さまから信頼される職員となるために、研修制度の充実と各人の自己研鑽を奨励してまいります。

お客さまや地域の成長・発展にお役に立てる金庫であるために、意欲と情熱をもって課題解決に取り組む職員を育成していきます。

- 全役職員が日々の仕事に「創意工夫」を発揮して取り組みます。
- 知識・ノウハウ等を習得するための研修制度の充実を図ります。
- 役職員一人ひとりが率先して自己研鑽に努めます。

平成28年度の決算状況について

預金残高は、懸賞付定期預金及び金利上乘せ定期積金などの企画商品の取り扱いが好評をいただき個人預金、法人預金ともに大幅な増加となりました。貸出金残高は、震災復旧・復興に向けた支援関連融資の積極的な取り組みにより大幅な増加となりました。

収益面では、業務純益は増益となりましたが、経常利益及び当期純利益はともに減益となりました。

業績について

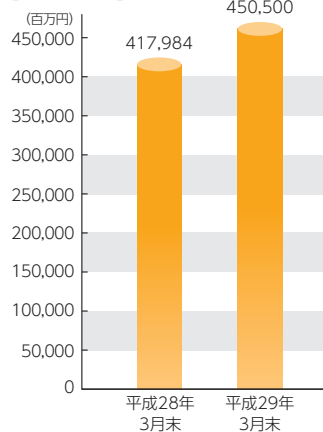
預金残高は、懸賞付定期預金や金利上乘せ定期積金などの企画商品がご好評をいただいたことなどから、個人預金で106億円増加し、前期比32億円増の4,505億円となりました。

貸出金は、地元中小零細企業を支援するための無担保無保証融資のプロパー商品「スーパー・グレードアップV」取り扱い開始により、地域活性化に向けた金融支援の強化を行った結果、前期比558億円増加の2,991億円となりました。

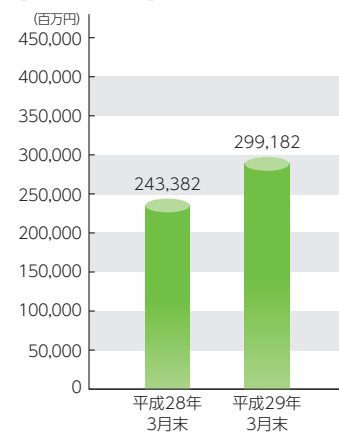
(単位:百万円)

	平成28年3月末	平成29年3月末	年間増加額(増加率)
預金残高	417,984	450,500	32,516(7.77%)
貸出金残高	243,382	299,182	55,799(22.92%)

【預金残高】



【貸出金残高】



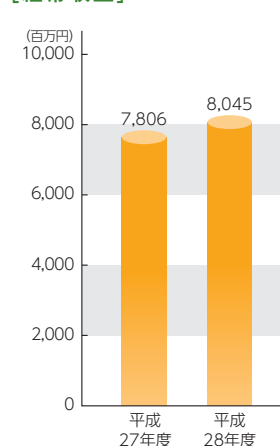
収益について

経常収益は、金利低下の影響により資金運用収益が減少しましたが国債等債券売却益の増加により前期比238百万円の増収となり、業務純益も前期比538百万円の増益となりました。一方、経常利益及び当期純利益は、与信関係費用等の増加により、経常利益が前期比432百万円、当期純利益が512百万円の減益となりました。

(単位:百万円)

	平成27年度	平成28年度	年間増加額(増減率)
経常収益	7,806	8,045	238(3.05%)
経常利益	2,282	1,850	△432(18.93%)
業務純益	1,535	2,074	538(35.09%)
当期純利益	1,766	1,253	△512(29.03%)

【経常収益】



【損益】

